

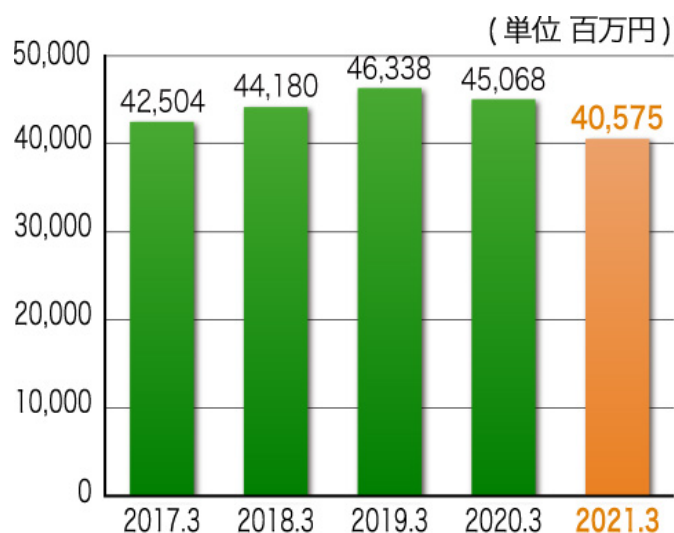
主要連結財務指標

決算のポイント

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大による経済活動停滞の影響を受け、売上高は前期比10.0%減
- ・ 販売費一般管理費は減少したものの売上高減少の影響を受け、営業利益は前期比33.8%減
- ・ 日本市場では、鉄道車両向けの出荷や、減災・防災市場等の官公庁需要の販売は伸長。

売上高

売上高



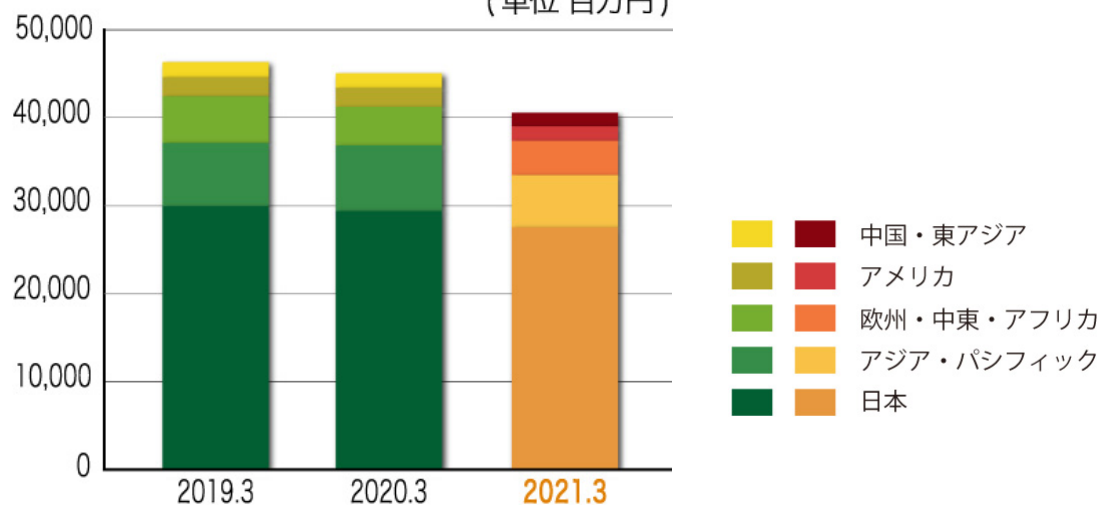
2020年3月期比で10.0%減少。地域セグメント別では、日本は民需が低迷し6.3%減。アジア・パシフィックは重点市場である宗教施設市場向けの販売不振で20.5%減、欧州・中東・アフリカは各地で経済活動停滞の影響を受け11.1%減、アメリカは小売店向け音響機器の販売が伸び悩み23.6%減となり、中国・東アジアについても販売全体が伸び悩み7.2%減となりました。

報告セグメント別売上高

(単位 百万円)

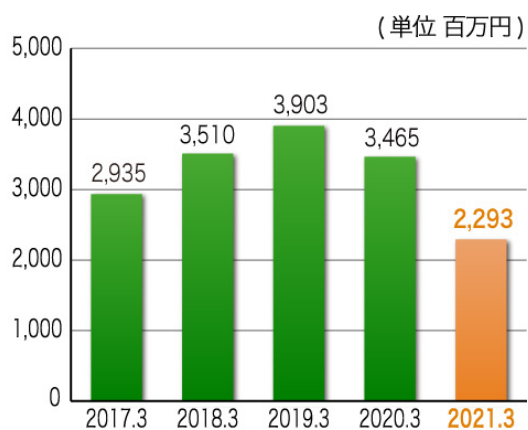
	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
日本	29,953	29,412	27,562
アジア・パシフィック	7,183	7,455	5,927
欧州・中東・アフリカ	5,306	4,381	3,895
アメリカ	2,173	2,148	1,640
中国・東アジア	1,721	1,670	1,549

(単位 百万円)

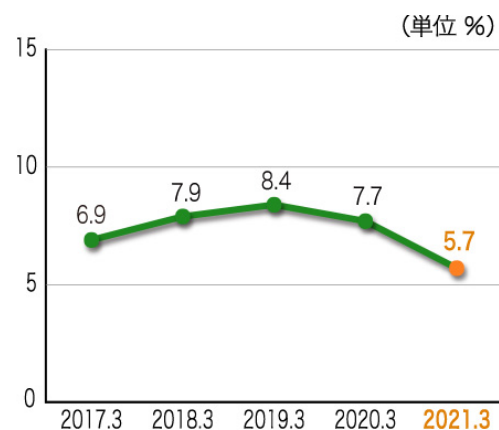


利益

営業利益

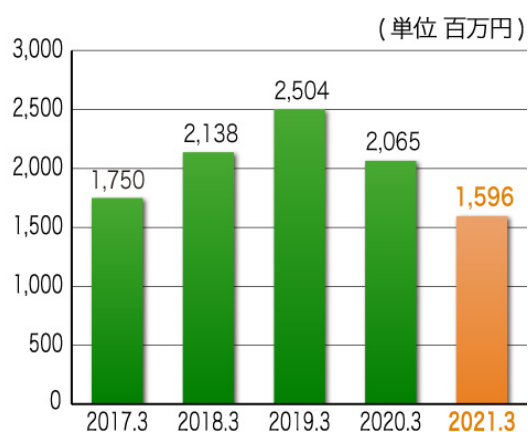


売上高営業利益率

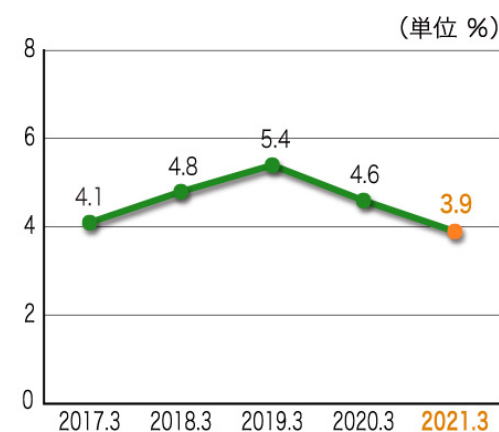


日本、アジア・パシフィック、欧州・中東・アフリカ、アメリカ、中国・東アジア市場の世界5つの地域すべてにおいて売上高が減少し、また、売上高減少に伴って営業利益は2020年3月期比で33.8%減となりました。このため、売上高営業利益率は2.0ポイント悪化し、5.7%となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益



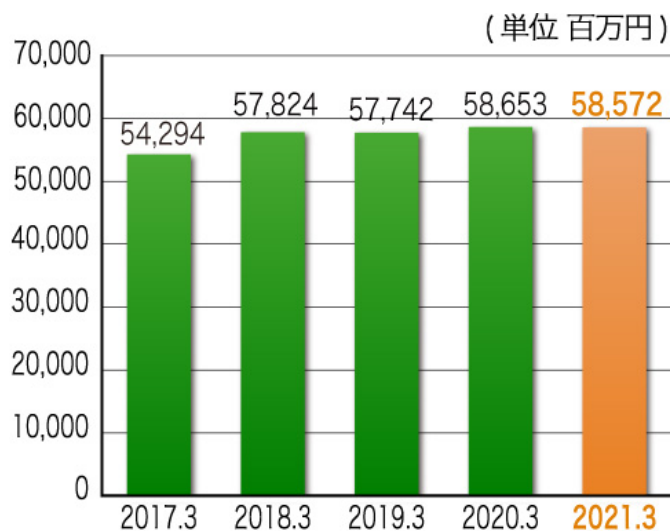
売上高当期純利益率



親会社株主に帰属する当期純利益は、2020年3月期比で22.7%減少しました。売上高当期純利益率は0.7ポイント減少し、3.9%となりました。

資産

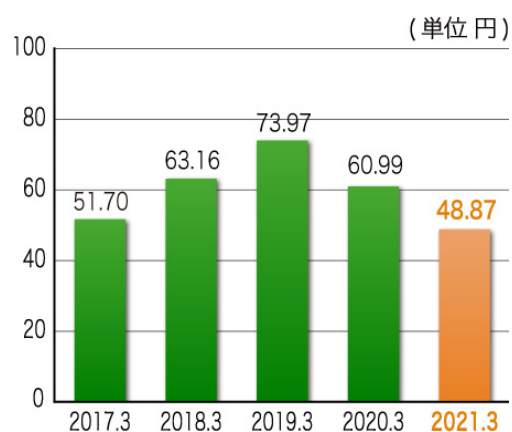
総資産



2020年3月期比0.1%減の585億72百万円となりました。

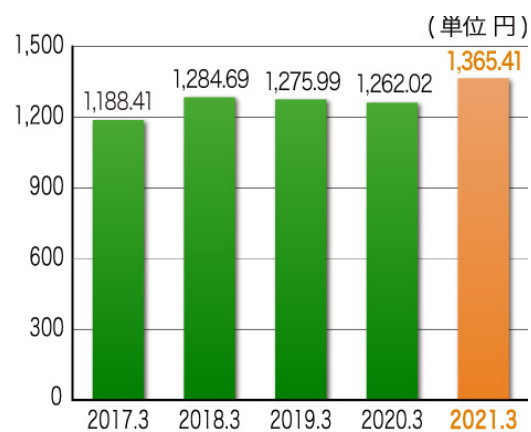
1株当たり指標

1株当たり当期純利益



親会社株主に帰属する当期純利益の減少に伴い、2020年3月期比12.12円減の48.87円となりました。

1株当たり純資産



1365.41円となり、2020年3月期比で103.39円増加しました。

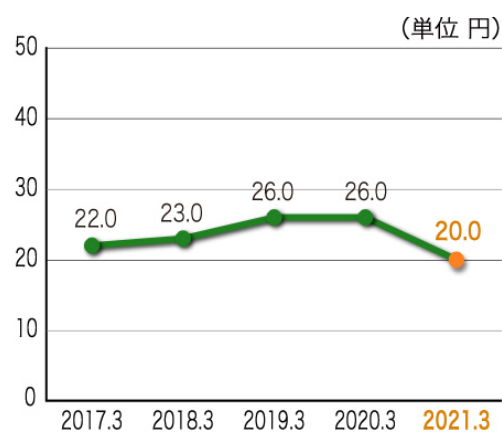
その他連結財務指標

決算のポイント

- ・ 1株当たり年間配当金は、安定配当の20円を維持し、連結配当性向は40.9%に
- ・ 自己資本比率は、前期比2.9ポイント増の75.8%に
- ・ 自己資本当期純利益率(ROE)は当期純利益の減少により前期比1.1ポイント減の3.7%に

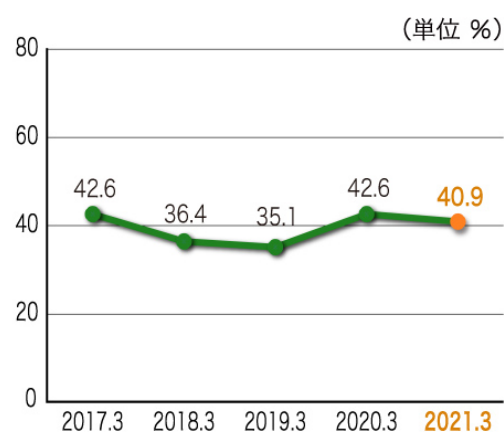
配当

1株当たり年間配当金



安定的な配当(年間20円)を基本としつつ、配当性向35%を目安に、持続的な成長を可能とする内部留保とのバランスを総合的に勘案した結果、1株当たり20円としました。

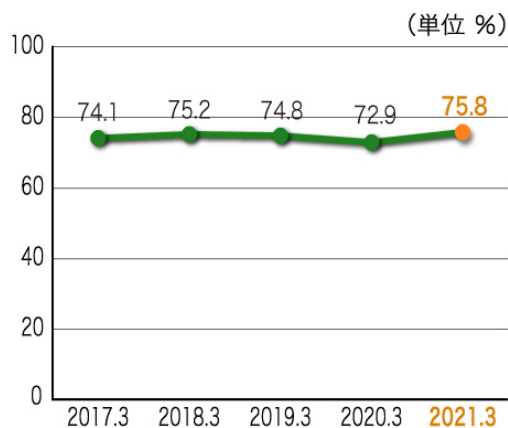
配当性向



連結配当性向35%を目安としており、2020年3月期比で1.7ポイント減の40.9%となりました。

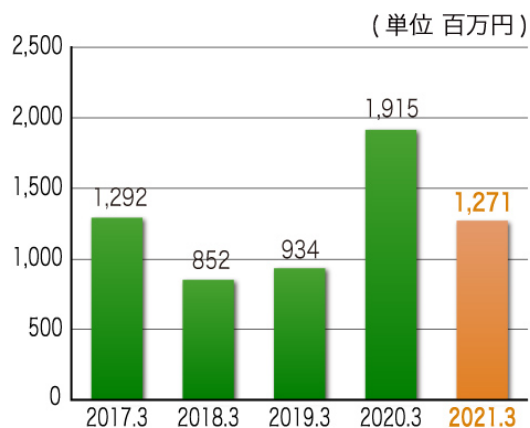
安全性

自己資本比率



2020年3月期比2.9ポイント増の75.8%となりました。

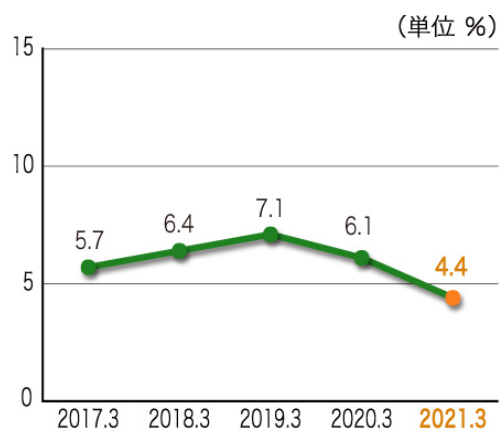
有利子負債



短期借入金の減少により2020年3月期に比べ33.6%減の12億71百万円となりました。

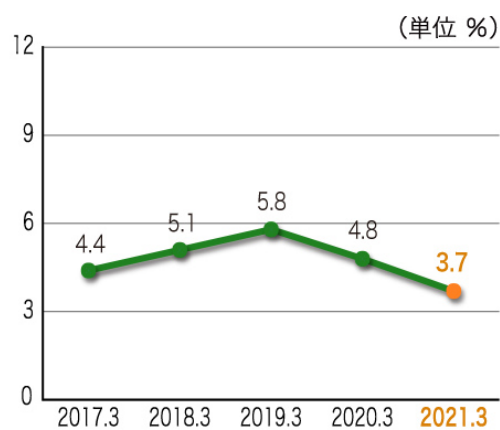
効率性

総資産経常利益率(ROA)



総資産は減少したものの、経常利益の減少率が上回ったため2020年3月期に比べ1.7ポイント減少し、4.4%となりました。

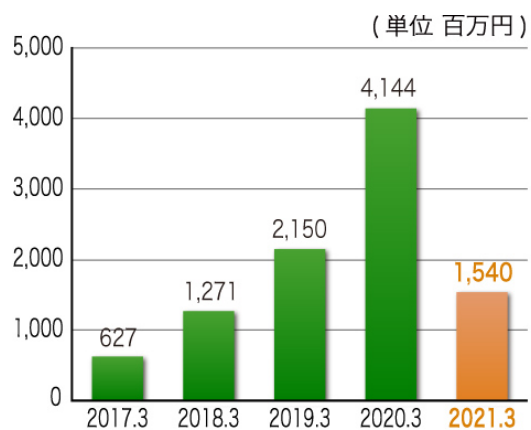
自己資本当期純利益率(ROE)



親会社株主に帰属する当期純利益が減少したことにより2020年3月期に比べ1.1ポイント減少し、3.7%となりました。

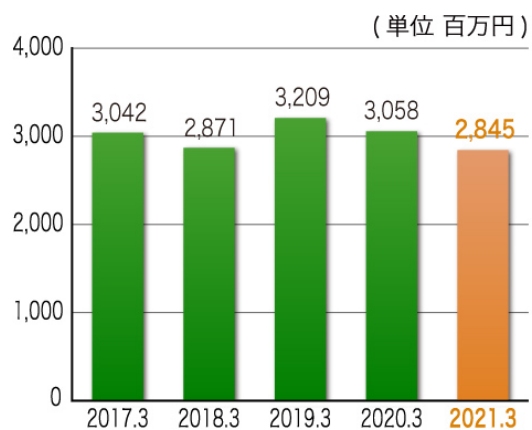
成長性

設備投資額



研究開発施設「ナレッジスクエア」への大規模投資も終了し、2020年3月期に比べ62.8%減少し、15億40百万円となりました。

研究開発費



2020年3月期に比べ7.0%減少し、28億45百万円となりました。